

1年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【知識・技能】 ○語彙量が少なく、接続語や指示語の適切な使い方に課題がある。 【思考力・判断力・表現力】 ○自分の考えや意見を書くことが苦手な生徒がクラスで半数程いる。</p>	<p>【知識・技能の定着】 ○文脈から語句の意味を推察させる練習を授業において計画的に取り入れる。また、新出語句を使った短作文の作成などに取り組みさせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○各単元のまとめの授業などで、自分の考えや意見を書かせ、他者と交流をする中で、文章を校正しながら、より分かりやすい意見や考えを書くことができるように指導を積み重ねていく。</p>
社会	<p>【基本的な知識・理解】 ○考えるための基礎となる基本的な知識の定着が心配な生徒が、クラスの半分ほどいる。 【思考力・判断力・表現力】 ○上記の知識を基に自身の考えをもち、まとめ、表現する力は全体的に課題がある。</p>	<p>【基本的な学習習慣を定着させるための取り組み】 ○基本的な内容を繰り返し学習し、定着させるための習慣を付ける。そのために授業内で見開き1ページ毎に、授業冒頭で小テストを行う。 【ICT機器を活用した機会の確保】 ○ICT機器を使うことで、時間のかかる書く作業の時間短縮を図る。その時間を話し合いやまとめの時間に使うことで、左記の活動時間を確保する。</p>
数学	<p>【思考力・判断力・表現力】 ○知識・技能は概ね定着してきているが、文章問題や思考力をみる問題において、解決の見通しをもてず、無回答が見られる。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力の育成】 ○分かっていることや問われていることを明確にし、課題解決への見通しを全体で共有する。難しい場合は、線分図や表などを用いる。 ○課題に対し、自分の考えをもち、他者と伝え合う活動を通して、表現力を高めていく。</p>
理科	<p>【思考力・判断力・表現力】 ・実験や観察から習得することもあるため、現状では生徒一人一人の習熟度については、十分に把握しているとはいえない。 ・基礎学力の定着が図られていない。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力の育成】 ○個人で短時間に実施ができる実験等を行い、技術力を習得させ、技能の定着を図る。 ○授業の終わりに振り返りや考察をまとめさせることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ○小単元ごとに、学んだ知識を活用して考察できる設問を設定する。 ○基礎的な学力の定着のために、授業内で復習の時間を設定する。</p>
英語	<p>【知識・技能】 ○小学校での既習事項が中学1年生で改めて学習する文法事項や基本文の定着度は高い。英文を声に出して読むことができても、書くことは苦手な生徒が一定数いる。 【思考力・判断力・表現力】 ○話すこと（発表・やりとり）において、目的・場面・状況などに応じて、自分の考え、気持ちなどを伝えることが苦手な生徒が多い。 ○書くことにおいて、簡単な語句や文を用いて場面に応じたまとまりある文章を書くことが苦手な生徒が多い。</p>	<p>【基礎学力の向上】 ○授業を通して得た知識をどのように使うのか、話すこと・書くこと・聞くこと・読むことの4領域を結び付けて学習に臨めるような言語活動を行う。 ○毎時間の振り返りシートの記入を徹底し、授業で何ができるようになったか・知識をどのように使っていくかを意識させる。 【自己表現活動の継続】 ○ALTとのパフォーマンステスト、ライティングテストの結果を踏まえ、生徒の理解度に応じた言語活動の充実を図る。</p>
美術	<p>【知識・技能】 ○自分が表現したい作品に向かって、どんな道具や材料を選んでいったら良いのか、分からない生徒が多い。 【思考力・判断力・表現力】 ○与えられた課題を理解し、自分自身のアイデアを生み出していく力とアイデアを表現していく力の両方を兼ね備えている生徒が少ない。</p>	<p>【知識・技能の改善点】 ○各自の完成作品を目標に、制作手順シートをつくり、どの様に道具や材料を使用すれば良いかを、見通しをもって制作させる。 【思考・判断・表現の育成】 ○課題の理解を深め、思考や発想を制作に結び付ける事ができるように、制作手順シートを活用しながら一人ひとり丁寧に指導していく。</p>
音楽	<p>【アルトリコーダーの技能の課題】 ○初めてのアルトリコーダーの運指につまづきがある。また、基礎的なタンギングの奏法が不十分である。 【知識・技能の課題点】 ○定期考査の結果から、基礎的な音楽記号の知識の定着が不十分であった。単語では理解できている部分もあるが、曲の中で出てくる音楽用語への共通理解が薄い。</p>	<p>【運指のポイントを覚える】 ○基礎となるポイントをおさえて指導する。ゆっくり、繰り返し基礎練習を行っていく。個人差があるので到達度に合わせた課題を多めに用意し、個別対応をする。 【曲の中で表現しながら体感する】 ○音楽記号を単純に暗記をするのではなく、曲の中で表現しながら感じ取ることで知識の定着を図る。</p>
保健体育	<p>【体力向上：握力・筋力】 ○何かを握る、つかむ、投げる、捕るなどの動作を苦手とする生徒が多い。 【体力向上：筋持久力・心肺機能】 ○走り続けることや、泳ぎ続けること的能力も低く、これからの課題である。</p>	<p>【知識・技能の向上】 ○授業の導入の部分で、各種目や運動に必要な体力要素の向上を目指すドリル運動を取り入れる。 【保健分野との関連】 ○保健分野で学習した、体の各器官の働きと心肺機能の向上についての関連性を説明し、知識の定着を図る。</p>
技術	<p>【材料と加工の技術】 ○問題の発見～課題の設定まで興味をもって取り組めるようにすることが課題である。また、理解度やものづくりの経験に差があり、工具（道具）の扱い等により作業進度にばらつきが出ている。</p>	<p>【材料と加工の技術】 ○実習時に個別指導の時間を多く取り、丁寧な指導をする。実習作業に流れを作る。またICT（動画など）を活用し、自ら学び理解しようとするよう指導をする。 ○進度に遅れがある生徒や、より発展的な内容を望む生徒に対して、放課後の時間に補充学習を行う。また、授業で使用したスライドなどは、Google Classroomに貼り付けていつでも閲覧できるようにしておく。</p>
家庭	<p>【知識・技能】 ○小学校で学んだ基礎が身に付いていない生徒は、特に実技面で手間取ったり遅れをとったりすることが多い。 【思考力・判断力・表現力】 ○家庭の仕事に興味をもち、日頃から家事に接するなどして、いらないとなかなか自分の事として捉えることが難しい。実技ではアレンジに個性を出す事を目標としているがアイデアが画一的になりやすい。</p>	<p>【あらためて基礎を身に付ける】 ○基礎からの丁寧な説明を心掛ける。実技では実習時に個別の声掛けや指導をする。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○日頃から家庭の仕事を観察、体験をするよう促す。実技ではいろいろな表現方法や技能があることを調べることから、自分のアレンジに活かすよう導く。</p>